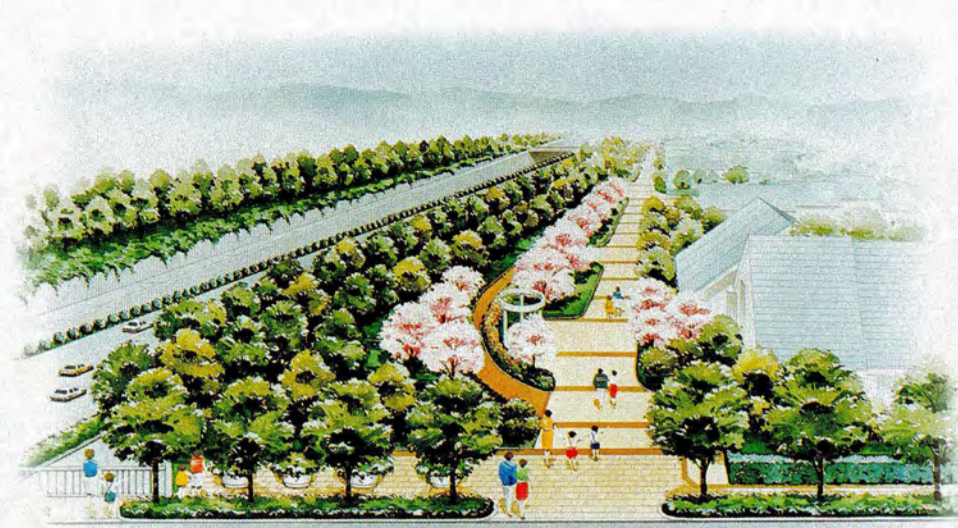


『緑立つ道』は、大阪と京都を結ぶ
新しい幹線道路《第二京阪道路》と併設する
《京都南・大阪北道路》の愛称です。

「緑立つ道」は、延長約26.4キロメートル、人や物の移動がよりスムーズになることはもちろん、新しい街づくりを行い、貢献することを旨として、新しい発想で道づくりを行っています。そのひとつのあらわれが、道の両側にそれぞれ約20メートルもの幅で設ける「環境施設帯」。「緑立つ道」では、ここに樹木を植え、緑豊かな道にしたいと思っています。そして、緑に自然な表情を持たせるため、「適地適木」の考え方を導入。その土地その土地に合った樹種（郷土種）を選定し、植樹します。このため、実際の道路用地にさまざまな種類の木を植え、長い時間をかけて、気候、土壌、その他周辺環境との適合の様子を観察する。試験植栽も行っています。「緑立つ道」の名の通り、潤いに満ちた21世紀の新しい道をつくるため、事業をおこなっています。ご理解とご協力をお願い致します。



道路用地と宅地用地を一体的に整備し、緑あふれる協調空間を創ります。(イメージ図)



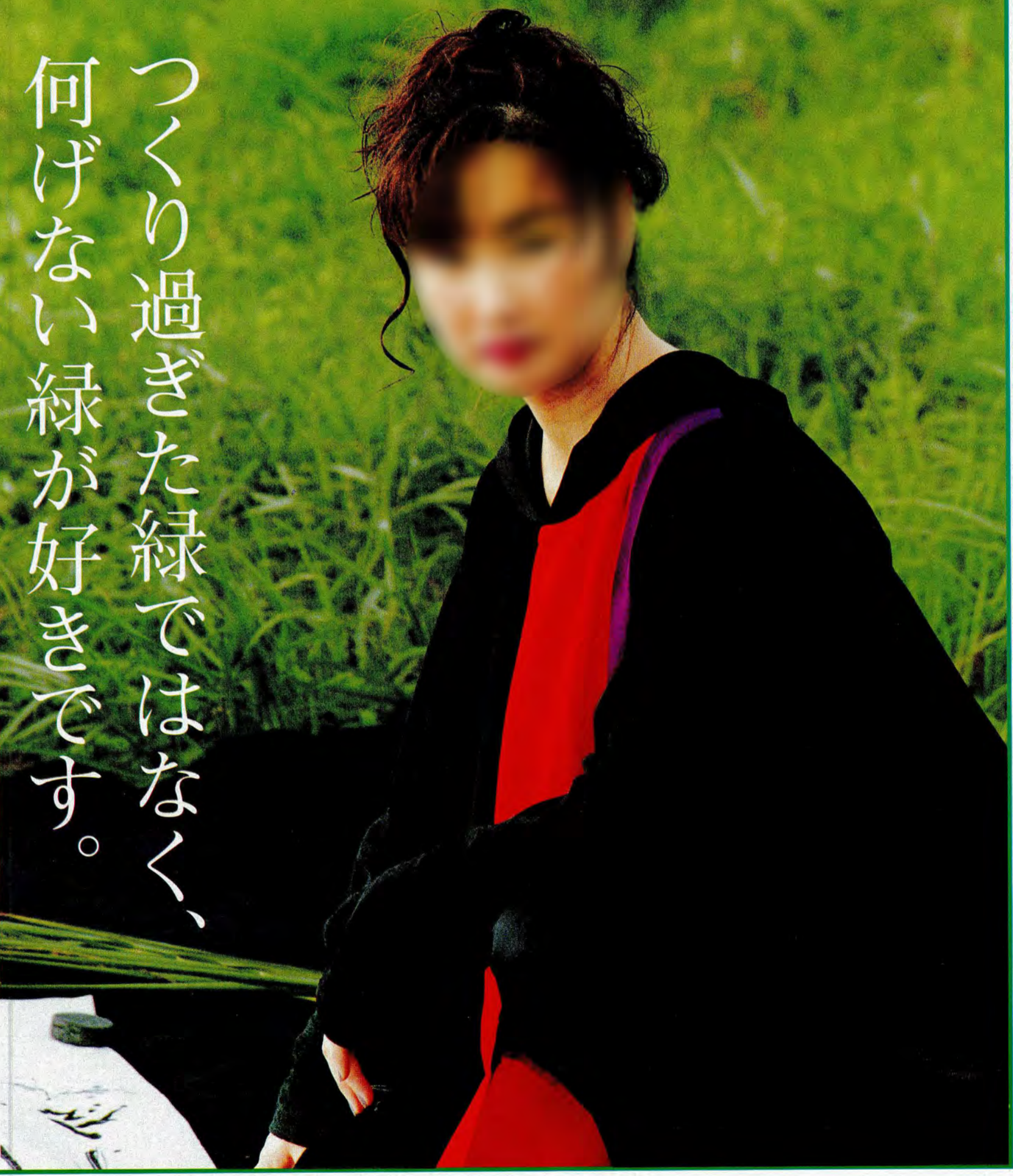
道路と暮らしが、一体となる街づくりをめざして。「緑立つ道」イメージ図

緑立つ道 vol.14



1998年12月発行

【発行】
建設省 近畿地方建設局
建設省 近畿地方建設局
建設省 近畿地方建設局
建設省 近畿地方建設局



つくり過ぎた緑ではなく、
何げない緑が好きです。

『緑立つ道』も、そんな自然な緑に満ちた道になってほしいですね。

枚方市

さんカリグラフィ・アーティスト(書芸家)

読者の声

第13号にお寄せいただいたみなさんのご意見。その一部をここで紹介します。(文章は抜粋させていただいております。順不同)

緑

立つ道の完成が待ち遠しい限りです。主人と二人、四季を見つけたら、緑立つ道を歩きたいと思っています。緑立つ道に、道の駅のようなのがあればいいですね。(大東市 さん)

運

動不足解消のため、毎週土日は雨が降らない限り自転車です。ジョギングやサイクリングにぴったりの道が、緑立つ道の側道として作られることを期待しています。木々に囲まれた道を朝走ることができたらきっと気持ちいいでしょうね。(交野市 さん)

埼

玉県から転居してきて、家の近くの国道が「緑立つ道」として整備されることを読み、この新聞を読むことも、道路を通ることも楽しくなりました。……「緑立つ道」が深呼吸できるような道路であってほしいと思います。(枚方市 匿名希望)

20

メートル幅の環境施設帯のところが通れるとしたら楽しくて気持ちいいなと思います。……緑立つ道が完成したら、その緑に感謝して、緑を汚さないよう、枯らすことのないようにしたいです。(大東市 さん)

道

路の主役はあくまで歩行者であること。忘れず、計画段階から歩く人の視点を忘れず建設してください。(寝屋川市 さん)

こ

ども新聞で木や草花の名前をたくさん覚えられました。植物との出会いが楽しくなりました。「緑立つ道」にどんな木々が植えられるのでしょうか。楽しみです。(交野市 匿名希望)

い

つも身近で見ている京阪電車の絵が載っていたので、3歳の息子がとても興味を示しました。これからは楽しく読める「緑立つ道」をお願いします。(寝屋川市 さん)

い

つも楽しみながら読んでいます。「道の、なんでも、No.1」で、明石海峡大橋が世界No.1になるのすごいと思った。これからもヨロシクおねがいします。(枚方市 さん)

第14号に寄せて

慌ただしい年末、いかがお過ごしでしょうか。人と自然の温もりあふれる道を目指す「緑立つ道」を、もっと親しみやすい存在に……そんな気持ちを込めて、今回から表紙の題字「緑立つ道」を、皆さんの書にリニューアル致しました。また、京阪電鉄の駅でも、「緑立つ道」のポスターを見かけた方もいらっしゃるはず。これからますます、「緑立つ道」と皆様の気持ちが近づくよう、この情報紙の発行をはじめさまざまな広報活動をおこなっていきます。よろしくお願致します。また、皆様のご意見をお聞きするため、今号は葉書をつけました。ぜひご協力をお願い致します。



葉書をいただいた方の中から、抽選で50名様にオリジナルテレホンカードをプレゼント。
テレホンカード、さしあげます。



ホームページへのアクセス、お待ちしております。

さまざまな道路事業の紹介や、関連ページへのリンクなど、内容も日々充実中。どんどんアクセスしてくださいね。

<http://www.naniwa.kk.moc.go.jp/>

建設省 近畿地方建設局のホームページです。

高速道路の情報は JH(日本道路公団)のホームページへ。

高速道路の技術の紹介やプロジェクト情報、交通情報などを、JHの事業概要ともにお知らせしています。

<http://www.japan-highway.go.jp/>

『緑立つ道』という名前から感じたのは、 わきでる「生命力」みたいなもの。 そのインスピレーションを書き込めました。

「あれ？いつもの表紙と何だか雰囲気が違う。」
「そうお気づきの読者の方もいらっしゃるのではないのでしょうか。」
「今回から、表紙の題字『緑立つ道』が、新しく『書』になりました。ダイナミックに筆を奮ってくださいましたのは、枚方市にお住まいのカリグラフィ・アーティスト(書芸家)さん。」
「いろんなところを歩くうち、ふと書のテーマが浮かぶことも多い。」
「そうおっしゃる、さんに、」
「緑」、「道」、「緑立つ道」への期待などを語っていただきました。



「緑立つ道」のことは、近所に住む友人などの話の中でよく話題になっていました。何より、『緑立つ道』という名前が「緑立つ」という春の季節感を含み、春は、いろんな生命が芽吹く、始まりの季節。そんな、力強い生命力のようなものを、わたしはこのネーミングから感じました。そして、その思いを書き表現したつもりです。書というのは伝達です。ですか

ら、大切なのは、「それは、どんな緑なのか」を相手に伝えることだと思えます。荒々しく風に揺れる緑を伝えたいのか、静かに風にそよぐおだやかな緑を伝えたいのか。自分が伝えたいメッセージによって、選ぶ用材もかわってきます。力強い緑を伝えたい場合は、たとえば、木の枝や葉を無造作にざくざくとかみ、それを筆にして書く。たおやかな緑を表現したかったら、やわらかな筆でやさしく書きあげる……。墨汁のかわりに草木の汁を使って素朴さを表現することもあれば、思いをひとつと一色の色に託すこともある……。

道を歩いていて、 書きたいテーマと ふと出会う―― 道は、わたしの 発想の源です。

今回『緑立つ道』という名前からわたしを感じたのは、いかにも「きれいきれい」した緑ではなく、素朴で、たくましくて、吹きわたる風に揺れる音までもが聞こえてきそうな、そんな躍動感に満ちた緑。だからそれを表現するために、筆も、自然の素材――藁でつくった筆を選んで使いました。いかにも「つくりました」ついで

わたしの場合、じつとしていても、書のテーマはわいてこないんです。だからしつこくうしろなところへ出歩きます。うしろの道(笑)。それも特に、自然の中がいいですね。自分の五官と五感を刺激するためには、自然の色、匂い、音……。そんなものを全身で感じると、自分がゆつくりと開放されていくのがわかります。そして自分の魂の奥の方が自然と響き合って、それが発酵して……

その結果、何か生まれてくるのわかる。あとはそれを、思いのままに紙の上に表現するのです。
わたしは京都の天満橋で、生徒さんを集めて書の教室――「書塾」というのをやっています。が、その授業も、課外授業というのか、よく戸外でやるんですよ。桜の季節なら桜の樹の下へ、紅葉の季節なら紅葉いっぱいの中へ、お弟子さんたちといっしょに出かけて、そこで自由に伸び伸びと書を楽しむんです。日本には四季という素晴らしい財産がありますから、そういうものを体で感じるだけでも、書に音色や匂いが出てきます。書が、いきいきと動き始めるんですね。
もちろん、目的地へ着く前から、書は始まっています……。そうそう、こんなこともありました。個展の時期が近づいていたあるとき、何か道端の自然のものをテーマにしようかなあなんて思いながら、道を歩いていたんです。そのとき、向こうから歩いてくる人に道を

聞かれたんですが、そのときのその人の顔がどうやらよほどわたしの深層心理に焼き付いてしまったらしくて(笑)。家に戻って、気が付いたら、自然のものを書くつもりが、「面―つら」という字を書いていた(笑)。
そう、わたしにとって、道は、未知との遭遇の場と言えるかも

巻き込まれると2時間もかかってしまうときもある。はつきり言っていてイライラします(笑)。「緑立つ道」ができることで、そうしたタイムロスが緩和されるなら、それは楽しみです。と、言いつつ、子供の手を引いてお散歩するときは、また違うものを道に求めます。安心して歩けること、周囲の景色が美しいこと……。子供はちよつとも興味を引き付けられるものがあると、じつとそこで立ち止まりますから、こちらもついついしよに立ち止まる。そうやってゆつくりゆつくり、休みながら遊びながら、歩くことそのものを楽しむことのできる道。憩いのある道。子を持つ母の立場としては、そんな道がいいなあと思います。

効果一辺倒じゃあ、さびしい。ちよつと横道にそれる、そんなゆとりもときには必要……。毎日の暮らしも、道も、結局同じことなんですよ。『緑立つ道』も、渋滞を解消し人や物の流れをスムーズにするという経済効果と同時に、心を潤わせるゆとり効果も考えて欲しい。期待しています。



自宅近くの淀川べりの道を子供と散歩する さん。



森― 用材：木の葉と枝

プロフィール
カリグラフィ・アーティスト(書芸家)
大阪生まれ。枚方市在住。
1987年 毎日書道展公募部門最高賞受賞
1990年 大阪国際交流センターにて初個展開催。同年、書の新たな可能性を求めてイタリア・ミラノへ。
1993年 大阪で2度目の個展。ミラノでも個展を開催。アーティストとしての活動が軌道に乗り始める。
1994年 ニューヨークの国連本部から招かれ、国連ビルでデモンストレーションを行う。またニューヨークアートディレクターズクラブ(A.D.C.ギャラリー)でも個展開催。
1997年 王子製紙ギャラリーにて個展

書の表現手段に、ガラス、竹、布などさまざまな素材を取り入れる。あるいはミュージシャンとの即興セッションを試みるなど、既成の枠にとらわれない新境地を開拓する気鋭のアーティストとして、注目を集めている。



目についた木や草を無造作につかみ、それをたばねて筆にして書くことも。「飾らない、素朴なタッチが出ます。」(さん)



イタリア(ローマ〜ナポリ)の高速道路

歩きたい、 ドライブしたい。 そう思わせられた ミラノの道。

書の新しい可能性を模索して、イタリア・ミラノにすんでいた時期があります。いわゆる異国情緒あふれる石畳の道は、ツーリストには、ステキ！という感じなんです。が、毎日歩く生活者にとって靴のヒールが気になっちゃって(笑)、正直歩きにくかったです。でも郊外の道をドライブするときの無条件の開放

ご意見、お待ちしております。

添付の葉書をご利用ください。
抽選で50名様にオリジナルテレホンカードをプレゼント。

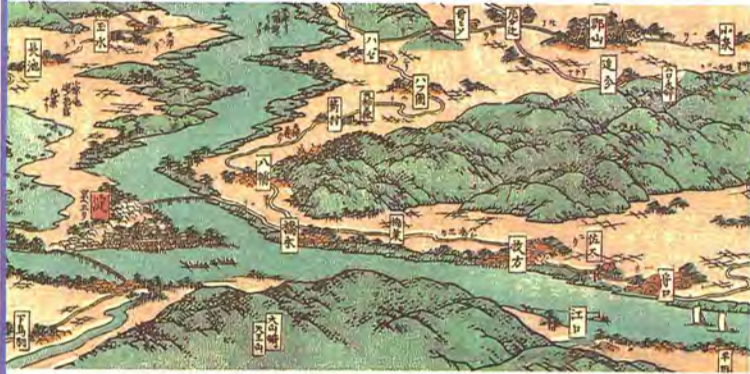
- 「緑立つ道」14号の中で、興味を持たれた記事の番号をお答えください。
 - ① さんの記事
 - ② 緑立つ道INFORMATION
 - ③ 読者の声
 - ④ こどもしんぶん
 - ⑤ その他
- 「緑立つ道」14号の記事について、ご感想をお書きください。
- この情報紙へのご要望がありましたら、お聞かせください。また、「緑立つ道」について、さらに、道路全般について、日頃思っていることやご要望なども、お聞かせください。
- 京阪間の道の歴史を絵と文章でわかりやすく解説した小冊子「道をたんで二千年」を
 - ① 希望する
 - ② 希望しない

以上、ご協力ありがとうございました。
なお、2,3へのご意見につきましては、今後「読者の声」コーナーで紹介させていただくことがありますのでご了承ください。
(匿名ご希望の方は、その旨書き添えていただけると幸いです。)



子どもしんぶん

だい 14 ころ
1998年12月発行



万延2(1861)年、淀川ぞいの宿場町の絵図だよ。
昔の人たちは、これをガイドブックがわりに旅したんだって。



くらわんか舟
淀川名物、「くらわんか舟」。「三十石船」という船に乗って淀川を上下する旅人たちを目がけて、「餅食らわんか、酒食らわんか」と声をあげて食べ物を売ったことから、そうよばれるようになったんだって。



守口宿
五十七次

牧方宿
五十六次

淀宿
五十五次

京街道を歩こう。



科書に出てくるシーボルトやケンペルもこの街道を通ったんだって。シーボルトは「牧方の環境は非常に美しく、淀川の流域は私に祖国のマインの谷を思い出させる」と日記に書いているよ。『京街道』は明治18(1885)年に国道2号になり、昭和27(1952)年には国道1号と名前が変わり、いまは部が「府道京都守口線」と重なっているよ。身近な道の昔のようすを考えると、なんだかとてもワクワクするね。みんなも一度「京街道」を歩いてみてね。

江戸時代、みんなの家のそばを通っていた「京街道」は、大坂と京都を結びつつもにぎやかな道だったんだ。『京街道』っていう名前を知っているかな。『京街道』は、江戸時代、徳川家康が京都と江戸(今の東京)をむすぶ道として整備した「東海道」というとても長い道路の一部だった。みんなはきっと「東海道53次」という言葉は知っているよね。これに伏見宿(54次)、淀宿(55次)、牧方宿(56次)、守口宿(57次)の4つの宿場町を加えて「東海道57次」。『京街道』は54次から57次までの宿場を持つ、とても重要でさかえた道だったんだ。なお「次」というのは宿場町のこと。宿場町というのは、人や物がたくさん通るところに、宿屋や運送機関などが集まってきた町のことだ。さて、この「京街道」を大名行列や武士、商人、旅人などたくさんの人々が往来し、とくに「参勤交代」のときは、お殿さまとその家来が長い長い行列をつくらせて歩いたよ。それに教科書に出てくるシーボルトやケンペルもこの街道を通ったんだって。シーボルトは「牧方の環境は非常に美しく、淀川の流域は私に祖国のマインの谷を思い出させる」と日記に書いているよ。『京街道』は明治18(1885)年に国道2号になり、昭和27(1952)年には国道1号と名前が変わり、いまは部が「府道京都守口線」と重なっているよ。身近な道の昔のようすを考えると、なんだかとてもワクワクするね。みんなも一度「京街道」を歩いてみてね。



※1) 1603年から1867年までを言うよ。 ※2) 大坂は、昔、大坂と書いたんだよ。 ※3) 枚方は、昔、枚方と書いたんだよ。 ※4) 図は、淀川筋鳥瞰図(部分)より

街道が**ぼくのわたしの**街をつくっていったんだね。

ここでは、『京街道』の中でも、特にさかえた『牧方宿』(いまの枚方市のもとになった町だよ)という宿場町の様子を見てみよう。4.5m幅の道の両側に378軒の家があり、旅人のためのお店や旅館もにぎやかに並んでいた。道が中心になって、街並みができていったわけだね。ではさっそく、江戸時代にタイムスリップ!

徳川家康が『牧方宿』をつくったんだ。

牧方宿は、徳川家康が特別に定めた宿場町で、岡新町、岡、三矢、泥町の4つの村からできていた。問屋場(運送の仕事の手つぎをする事務所のこと)には、大名行列のときに備えて、馬100頭、人足100人がいつも用意されていたよ。



枚方市岡本町、ビオルネ前を通る、京街道。



枚方には、今も、宿場町だったころの様子を思わせる家並みが残っているよ。



常夜燈
岡本町と三矢町の町境には、今も当時の常夜燈(一晩中、灯っている明りのことだよ)が残っているよ。

秀吉がつけさせた『文禄堤』。この道の上に京街道ができたんだよ。

京街道は、文禄3(1594)年に秀吉がつけた『文禄堤』という、伏見城と大坂城を結ぶ道がもとになっているんだ。みんなも知ってるビオルネが建てられたとき、地面の下から文禄堤の跡がでてきたんだよ。(右の写真)



五十六次 牧方宿

- = 旅籠屋、船宿
- = 宿役人・庄屋の家



大名行列で町の人口が**倍増**したことも。

今から約150年前の天保12(1841)年、牧方宿の人口は約1,540人。同じ年、ここに1,639人もの大名行列が泊まったこともあるんだよ。大名や身分の高い人は「本陣」、そのほかの人は「旅籠屋」やふつうの民家にも泊まったよ。

「飛脚」も『京街道』を走ったよ。江戸時代には今のように郵便やトラックなんてなかったから、大切な手紙やお金などは「飛脚」と呼ばれる人たちがかけ足で運んだんだ。



船宿『鍵屋』は、たくさんの旅人でにぎわったよ。

牧方宿の代表的な船宿だった『鍵屋』は、建物が淀川のすぐ隣にあって、床下にある船着き場から舟で出入りできたよ。今年3月で約400年の歴史をとり、今後は資料館として保存されることになっているんだって。



鍵屋別棟の床下

監修・資料提供: さん(枚方市立枚方中学校教諭・宿場町枚方を考える会事務局長) ※5) 宿の業務を運営する役人のこと。 ※6) 「本陣」が混んでいた時は、「脇本陣」がそのかわりをつとめたよ。また、「専用本陣」は紀州家専用の宿だったんだ。 ※7) 荷物を運ぶ人たちのことだよ。

『緑立つ道』や『こどもしんぶん』について、みんなの声を待っているよ。住所、氏名、年齢を書いて左のあて先まで送るか、情報紙についている葉書を使ってね。京阪間の道の歴史を絵と文章でわかりやすく解説したパンフレット「道をたねて二千年」をプレゼントします。(お便りは、紙上でご紹介させていただくことがあります。)

〒573-0094 枚方市南中振3-12-13
建設省 近畿地方建設局
浪速国道工事事務所
「緑立つ道」係



みんなの住んでいる街の近くに、新しい道「緑立つ道」ができるよ。みんなが生まれるずっと前の江戸時代は、「京街道」が京都と大阪を結ぶ大事な役割をしたけれど、みんなが大人になってからは、新しい道「緑立つ道」が、その役割を果たすよ。「緑立つ道」は、車の道と人や自転車の道の間、木がいっぱい植えられる予定だ。木の葉っぱは、季節ごとに違う色に変わって、通る人の目を楽しませてくれるし、車の排気ガスや騒音の影響をやわらげる働きもしてくれるよ。道を通る人も、まわりに住む人も、緑の中で思わず深呼吸したくなるような、そんな道。完成する日が楽しみだね。



道をたねて二千年